

義援金を いただきました



目録 贈呈式の様子

北海道にある以下の5つの株式会社様から、小高区4校に義援金をいただきました。これらの会社は、灯油タンクや農機具、防風柵、レーザー加工や融雪機などを販売している会社で、震災以降さまざまな地域に義援金を送り、復興を支援されているそうです。

いただいた義援金で、電子黒板を購入し授業に役立てたいと思います。ありがとうございました。支援いただいた5社は、以下のとおりです。

株式会社ホクセイ様、株式会社イシカリ様、株式会社ノースプラン様
大栄工業株式会社様、株式会社ヒルコ様

沖吉けい子先生からのプレゼント



正木先生と作った俳句が歌になりました。

正木ゆう子先生には、震災後、本校の3年生を対象に俳句教室を開いていただいております。授業の様子もすでにこの「学校だより」でご紹介しています。この俳句教室はすでに3年ほど続いています。

今回、熊本県に住む沖吉けい子先生が、子どもたちが作った俳句にメロディをつけてくださいました。沖吉さんは有名な童謡歌手であり、NHK文化センターで日本の歌の講師をしたり、先生が生まれた鹿児島県阿久根市の「アクネ大使」をされたりしている方です。

沖吉先生は、曲をCDに録音して本校に送ってくださいました。同封のお手紙には、子どもたちの俳句を読み、空想の中で小高小の子どもたちと一緒に散歩している気持ちになったとの言葉が添えられていました。いただいたCDは、季節毎に「春のうた」「夏のうた」「秋のうた」となっています。お昼の放送などで曲を流したところ、6年生では、歌を聴きながら「あの時、一緒に外に散歩して、言葉集めをしたのを覚えている。」とのつぶやきもありました。

俳句の学習がメロディをつけてくださったことで、新しい広がりを生むことに驚きを感じるとともに、子どもたちにすてきなプレゼントをくださった沖吉先生に、感謝申し上げる次第です。

「ごめんね。」
と言ったとき、いいよとこたえたのかもしれない。
みいちゃんは、おにくになりました。女の子は、なきながらみいちゃんのおにくをたべました。かなしいけれど、ありがたいの気持ちでたべたんだと思います。
おにくは、どうぶつのいのちだとわかりました。お魚やたまご、やさいもそうだと思います。わたしは、しよくじはのこさないで、かんしゃしながらたべようと思いました。